



## 今こそ、学校は組織力を発揮して

県教育庁義務教育課長 渡辺 伸 栄

教育の成否は、畢竟するところ教員一人一人の力量にかかっているというのは真実です。「この先生と勉強するのが楽しい」と言ってもらえる教員でありたい。そう思える先生の下でこそ、子供の力は伸びるでしょう。「どんな子も、あの先生に受け持たれるとよくなる」と思ってもらえる教員になりたい。まわりからそう思われることが教員としての誇りでしょう。皆、このような教員になりたいくて、己を磨いてきたのだと思います。

しかし、一面の真実だけですべてが片づくほど人の世の業は単純ではありません。教員個々の力量のみに頼ることが、逆に学校の組織力の発揮を鈍らせたという面があったことも否めないと思うのです。

学級の枠を超えた少人数指導、習熟度別指導等の実施により、以前よりは学級担任任せの体制でない、複数の教員による協力的な指導の体制が根付いてきているとは思いますが、学習指導・生徒指導を含めて、一人の子供を組織として育て伸ばすという体制づくりは、まだまだ不十分ではないでしょうか。

社会は複雑化し、情報化が進み、人々の価値観も多様化しています。このような社会に生きる子供たちは、量的には大人とほぼ同等の情報を入力しながらも、その情報処理に迷っているように見えます。彼らを取り巻く複雑な状況と、彼ら自身の複雑な心情を把握し、適切に誘導していくためには、いくら力量があったとしても教員一人の力には限界があります。

複数の教職員が多様な視点を持って一人一人の子供たちを見つめ、そこから把握された様々な情報を集約し、分析し、役割分担を明らかにして、それぞれの子供たちに対応することが必要になっています。ぜひ、一人の子供を一人の教員に任せるのではなく、教職員がチームを組み、リーダーの下、組織だった取組によって、一人の子供を学校全体で見守り育てる体制づくりをお願いしたいと思います。

もとより、教育が一人一人の教員の力量にかかっていることは普遍の真実であることを再度繰り返し、強調しておきたいと思います。

ところで、末筆ではありますが、7・13大水害で被災された学校、また教職員の皆さんに心からお見舞いを申し上げますとともに、一日も早い復旧・復興を祈念申し上げます。